

第38回FMSCマウンテンラリー2026

6月13日～14日／佐賀県神埼市・吉野ヶ里町周辺 129.98km 6SS 25.82km／福岡モータースポーツクラブ／晴れ／ドライ／ターマック
Text & Photo: HIROMOTO Izumi (廣本泉)

林大河／有川大輔が三つ巴のバトルを制す



RH-2 優勝 #8 林大河／有川大輔



RH-2 2位 #9 黒原康仁／松葉謙介



RH-2 3位 #10 納富瑠衣／大久保晴人



左から2位＝黒原康仁／松葉謙介、優勝＝林大河／有川大輔、3位＝納富瑠衣／大久保晴人。

山田益丈／山田芽生が今季初優勝



RH-5 優勝 #25 山田益丈／山田芽生



RH-5 2位 #26 福岡真吾／山下直樹



RH-5 3位 #27 常慶明秀／武内咲樹

泉勇希／WATAKENが開幕3連勝



RH-4 優勝 #21 泉勇希／WATAKEN



RH-4 2位 #22 上清瑞穂／内藤通孝



RH-4 3位 #23 西田侑弘／富安純

一方、RH-1クラスでは昨年のチャンピオン・津野裕宣がSS1、SS2でベストタイムをマークしながらも、マシントラブルに祟られてリタイア。代わって主導権を握ったのが阪本寧だったが、最後に勝ったのは「優勝したけれど複雑な気持ちです。今年から四輪駆動車になったので苦労していますが、なんとか勝つことができました」と語る前田耕

な。なかでも見応えのあるバトルが展開されていたのは、RH-2クラスにはかならない。同クラスでは、トヨタ86の林大河とスウィフトの黒原康仁、そしてGR86の納富瑠衣が三つ巴のトップ争いを展開していた。その混戦を抜け出したのが、開幕戦で3位、第2戦で優勝した林で、「古いタイヤでしたが、うまくコントロールできました。オーバーオールで勝つたので気持ちいいです」と語るように計3回のSSベストを獲得し、総合リザルトでも2連勝を達成。黒原が僅差の2位に惜敗し、納富が3位で表彰台を獲得した。

九州ラリー選手権第3戦「第38回FMSCマウンテンラリー」が6月13日、14日に佐賀県吉野ヶ里町を舞台に開催された。曇天の空の下、6クラスに33台が集結し、計6力所のSSで激しいタイム争いが展開されていた。

前田耕造／前田雅子が逃げ切る



RH-1 優勝 #2 前田耕造／前田雅子



RH-1 2位 #4 阪本寧／牧野瞳子

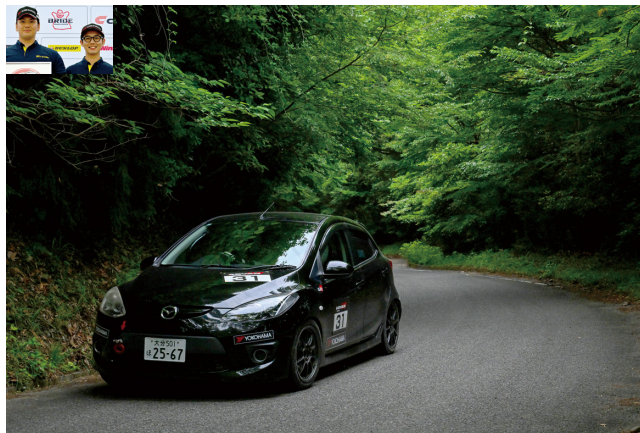


RH-1 3位 #7 城戸新一郎／岸本香太郎



左から2位＝阪本寧／牧野瞳子、優勝＝前田耕造／前田雅子、3位＝城戸新一郎／岸本香太郎。

崎野伶／出雲雅郎が2連勝



RH-6 優勝 #31 崎野伶／出雲正郎



左から2位＝白土辰美／菅原悠真、優勝＝崎野伶／出雲正郎、3位＝山崎純一／河本拓哉。



RH-6 2位 #30 白土辰美／菅原悠真



RH-6 3位 #33 山崎純一／河本拓哉

三浦勇二／三浦勇輝が今季初優勝



RH-3 優勝 #17 三浦勇二／三浦勇輝



左から2位＝田島宏司／新原秀直、優勝＝三浦勇二／三浦勇輝、3位＝北垣恵一／横手孝稀。



RH-3 2位 #20 田島宏司／新原秀直



RH-3 3位 #16 北垣恵一／横手孝稀

造で、最終Sでベストタイムをマークし、第2戦に続いて2連勝を果たした。

また、RH・3クラスでは、SS1でベストタイムをマークして後続に8秒位以上のギャップを築いた三浦勇二がラリーをコントロール。「SS1、SS2でリズムよく走れて、タイムを稼ぐことができました」と語る三浦が、今季初優勝を獲得した。

RH・4クラスでは、泉勇希が圧倒的なパフォーマンスを披露。「RPNの1500ccのフィットで、総合10位に入ることができたのうれしいです。RH・3クラスを飛び越えて、RH・2クラスにめりこむ勢いで走れたので、これまでに一番良い結果でした。地元から近く、事前に準備ができたことが大きかったですね」と語るように、泉が開幕3連勝を達成した。

RH・5クラスでは「ドライタイヤの使い方がうまくできたと思います。今年から始めた息子と勝てたのでうれしいです」と語る山田益丈が2連勝を達成。

RH・6クラスでは、「初めて16インチタイヤを使ってみました。走りづらかったけれど、ギリギリ勝てました」と語る崎野伶がベテランの白土辰美に競り勝ち、2連勝を達成している。